

「学校との“やりとり”に関するチェックシート」【活用例】

1 進級後や入学後の児童生徒支援の確認のために

子どもが「学校にいつてみようかな…」という思いを抱いている場合、節目となる始業式や入学式が登校のきっかけになることがあります。しかし、それだけでは不登校状態がすぐに改善するわけではなく、実際は登校や欠席を繰り返したり、心のエネルギーが切れて再び不登校の状態にもどったりするケースが少なくありません。



よって、学校は前年度に不登校だった児童生徒については、進級後（または入学後）できるだけ早い時期に保護者と話し合える時間をつくり、子どもの様子や配慮してほしい点などについて確認をしておくことが大切です。その際、事前に本チェックシートを保護者に記入してもらっておくことで、話し合いがスムーズに進められることが期待できます。

※ 年度初めのこの取組は、非常に重要だと考えています。ぜひ、学校全体で実施するなど組織的な取組をご検討ください。

2 学校行事への参加に向けて



社会科見学などの校外学習や修学旅行なども、再登校のきっかけになることがあります。場合によっては行事だけの参加に終わるかもしれませんが、「参加したい」と思うようになったことを前向きになっている証拠ととらえ、行事当日に向けて準備を進めたいものです。学校は、子どもがよりスムーズに参加するために、できれば事前学習や事前の班決め、班ごとの計画づくりなどにも参加をさせたいと考えられることと思います。その際に配慮すべきこと（学校からの連絡方法やプリントの配布対応など）について、本チェックシートを使いながら、保護者と一緒に確認することも一つの方法でしょう。

3 学校と保護者とのかかわりを保つために

学校へ行っていない時期も、何らかの形で学校とのかかわりを保つことが大切です。子どものようすに変化があったり、回復の兆しが見られたりしたら、すぐに保護者と共有できる体制を整えておく必要があります。日常的に、情報共有をしておくことで、子どもが学校へ行こうという気持ちになったとき、よりスムーズに登校へのサポートができると考えます。



そういった、学校と保護者とのかかわりを保つ体制づくりのために、本チェックシートを効果的に活用してください。

4 再登校に向けた準備として

年度の節目や学校行事以外でも、子どもから「学校に行ってみようかな…」といった言葉が出てくることがあります。そんなとき、学校や保護者は子どもの気持ちを確認しながら再登校に向けて丁寧に準備を進めていくことになります。



再登校は、子どもにとって大きなエネルギーを必要としますし、場合によってはクラスの友達に協力や配慮をお願いしなければいけないケースもあります。もしも、その子が教室で1日過ごすことが不安であるようなら、別室登校や部分登校（得意な授業だけ参加など）、放課後に先生に会いに行くなど様々な対応が求められます。子どものペースを尊重しながら、どのような対応が可能か、本チェックシートを使って保護者と一緒に確認をされてはいかがでしょうか。

5 学校と保護者の考えに齟齬が生じた場合に

学校と保護者の考えに齟齬が生じ両者の間に溝ができそうなとき、学校は子どものために保護者と一緒に考え支えていく姿勢を示すことが求められます。そんなとき、本チェックシートを活用されてはいかがでしょうか。

